

堺市歴史館での彫刻展のこと

清水健二

丸2カ年に及んだコロナ禍がやっと下火になり、各所でアート作品展の行事開催が活動し始めた。私の所属する美術協会も早々と動き出した。今回は彫刻部門から有志10名が、堺市にある千利休と与謝野晶子が中心になった文化歴史館(利晶の杜)や町家歴史館(清学院と有形文化財・山口家)等で展示会が6月1日～27日まで開かれた。1人3～4点を会場ごとに分け合って出品し、私は清学院に3点と山口家に1点を出品した。

我々高5期生の多くの皆さんが住まれていた阿倍野界隈は、今なお現役で走っている路面電車の阪堺線を懐かしく想われることでしょう。JR天王寺駅前から阿倍野橋＝浜寺公園間を走っているチンチン電車に乗って、我孫子から大和川を渡るとすぐ高須神社前に着く。ここから徒歩ですぐの所に清学院があって、山口家は南に下って綾の町にあるが、このあたりは戦火を逃れ古い家々が残っていて、今も昔の面影をとどめている。ただし利晶の杜は宿院にあり新しく会館が建って古い堺の街並みは皆無である。

以下に私の出品した作品をご紹介します、美術館への展示とは違った雰囲気味わえて良かったと思っている。清学院の入り口に展示された両手は、真言密教の仏像の印相からヒントを得て、両手の小指を絡ませて、自分の腕と手をクロスに組んでデッサンし制作したものである。実物大より2割ほど大きく自分でも気に入った作品になったと思っている。清学院の中は昔の寺子屋のような部屋があり、読み書きそろばんを習った幼少の子供達の机や硯、そろばん等が並べら



利晶の杜の会館



阪堺線の高須神社まえ



印相「誓願」



「唐美人」と「風船を持つ幼児」

れている。この部屋の床の間に最近の作品「唐美人」と「風船を持った幼児」の小品を飾ってもらった。

山口家は約400年前、大坂夏の陣の後に建てられ、江戸期に増築された庄屋の屋敷で、大戦では焼け残った為、今は有形文化財に指定されている。この屋敷の土蔵の壁に、レリーフ彫刻「エジプトの旅から」と題する作品を展示してもらった。私がエジプトのギザを訪れた時のピラミッドとスフィンクスの印象をデッサンし彫刻した懐かしい作品である。

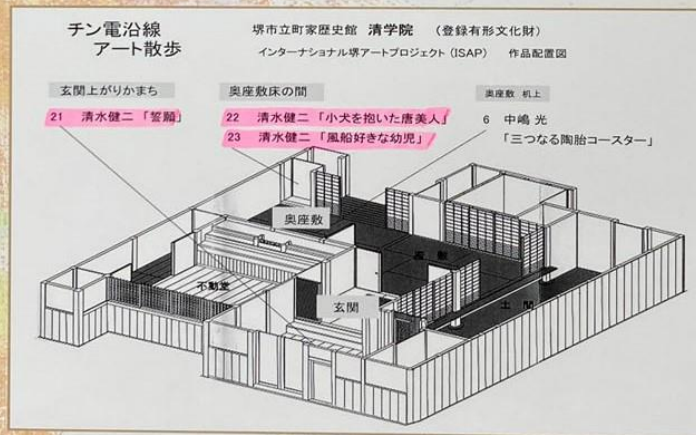
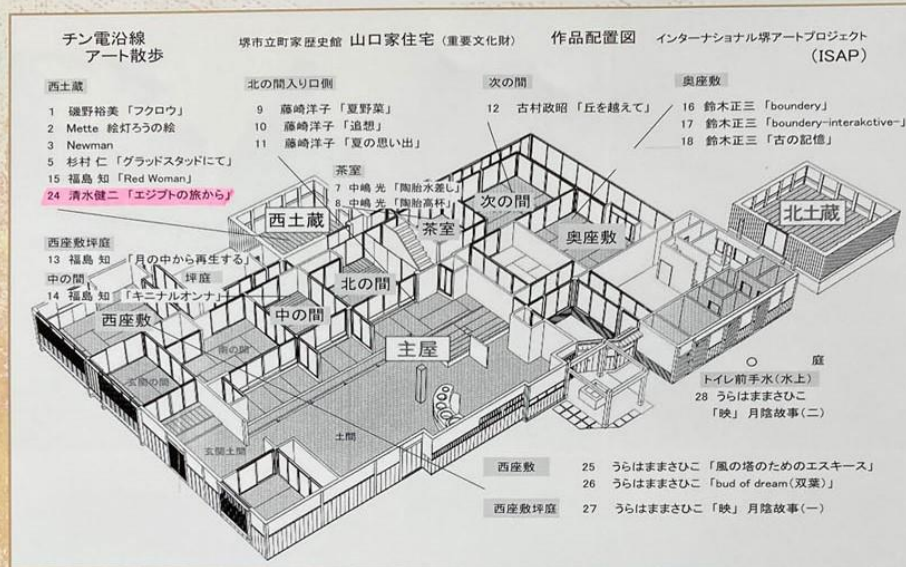
今回の展示会で久しぶりに堺の街を歩いた。千利休ゆかりの南宗寺(なんしゅうじ)があって、ここに細君の父方の墓地がある。この機会と言えば叱られそうだが、義父母の墓にお参りした。この南宗寺はずいぶんきれいに整備され、夏の花々が咲きほこっていた。町は戦後の都市計



「エジプトの旅から」(レリーフ)

画が徹底され、大阪の御堂筋以上の広い道路が通っているが、焼け残った場所は古い
佇まいと瀟洒な洋風の家々が混在し、町としての美観は失われてしまっている事を残念
に思った。
令和4年6月記

館内図



インターナショナル堺アートプロジェクト
ISAP (実行委員会) 共催 堺市観光部
事務局・問合せ先 ギャラリーいろはに
〒590-0953 堺市堺区甲斐町東1丁2-29
電話：072-232-1682 WEB FB開設予定

展示状のレイアウト